

C O R R E N T E

Centro Culturale Italo-Giapponese di Kyoto

私のイタリア留学記： ヴェネツィア

水の都へ

安田 脩平

みなさん、こんにちは。Come va? 調子のいい人も悪い人も普通の人、私のヴェネツィアでの留学体験記を読んでもらえるとうれしいです。



【ヴェネツィアの大運河】

私は現在、大学でイタリア語を学んでいます。「なんでイタリア語なん？」と友人や知人から聞かれることが多いですが、そんな時、決まって言うことは「世界遺産が多いから。あと食べ物おいしい。」この他には「ジョジョってマンガにイタリアが出てくるから！」と言う時があります。実のところ、この理由が一番大きいのです。たったこれだけの理由で高校二年生の時に「イタリア語学科のある大学に行って、絶対ペラペラになってやる！」と心に決めました。そして高校三年生の冬、イタリア会館に通い、マリア・ローザ先生に三ヶ月間イタリア語を教わりました。大学でイタリア語のみならずイタリアについても勉強し始めたので、当然イタリアに行きたいという気持ちは強くなり、親に頼みこん

で念願のイタリア留学が叶いました。すぐにイタリア会館に行き、片山さんと留学の相談をしました。私は水の都ヴェネツィアと仮面の祭り(カルネヴァーレ)に非常に興味があったので、留学先をヴェネツィアの Istituto Venezia に、日取りはカルネヴァーレがある2月に決めました。

そして迎えた2月、私はヴェネツィアに向けて飛び立ちました。海外旅行は2回目、ヨーロッパは初めてで、しかも英語はほとんど話せないのでも乗り換え等がとてつもなく不安でしたが、問題なく乗り換えて、無事マルコ・ポーロ空港にたどり着きました。大きな荷物を抱え空港の外に出ると、いきなり男の人に声を掛けられました。「Usi taxi? Dove vai?」その男の人はタクシーの運転手でした。その時、時刻は夜の11時頃。当然バスもないし、疑ったりするのも面倒だったので、空港からホテルまでの地図を見せタクシーに乗りメストレにあるホテルに向かいました。内心、遠回りされてボラれるんじゃないかと思っていたのですが、20分もかからずホテルに着き、20ユーロ(この値段がすでにボラれていた可能性もあるが)と少しのチップを支払いました。タクシーの運転手はお金を受け取ると「そこのバールでコーヒーを飲んでくる、ciao」と言って立ち去りました。これがイタリアに来て初めて警戒心が解けた瞬間でした。

次の日の朝、ヴェネツィアまでバスで行きたかったのですが、生憎の日曜でバスが全然ないと言われ、ホテルの人に20ユーロを支払いヴェネ

ツアのローマ広場まで送ってもらうことにしました。車中で「イタリアは初めて?」「何をしにイタリアに来たの?」「イタリア語はどれくらい話せるの?」「どれくらいいるの?」とたくさんの質問をされ、それらの質問を必死で理解し、それに対する答えを頭の中から探し出し言葉にするのにとっても苦労したのを覚えています。拙いというかぎくしゃくしているというか…とにかく外国人と会話することに馴れていなかったのです。そんな会話をしているうちにラグーナが見えヴェネツィア本島が姿を現しました。あれが憧れの町だ、と胸の高鳴りを覚えました。駅に着くと驚くべき光景が目に入りました。水が道まで溢れているのです。これが噂に聞いていたアクア・アルタか。簡易の掛け橋が設置されている辺りは水浸しです。簡易橋を渡っている時に店の中から水を掃き出す人や長靴を履いて移動している人をたくさん見ました。その時、ヴェネツィアはいつか沈む!と言われているそのわけを理解し、長靴が必要だ!と悟りました。しかしすぐにアクア・アルタは引き、長靴を履く必要はなくなりました。ヴェネツィアの町は高い建物が密集していて、まるで迷路の中を歩いている感覚でした。地図を広げ重い荷物をゴロゴロと引きずりながら何度も何度もステイ先のアパートを探し、ようやくなんとか見つけたのですが、アパートの大家さんが待ち合わせ時間に来なかったために鍵を受け取ることができず、結局ホテルに泊まることになったことは忘れることができません。翌日、学校から大家さんは待ち合わせ時間の6分後に来たと言われました。こうしてヴェネツィア初日に見事な洗礼をいただきました。しかし、こんな災難な日でも幸運なことはありました。アパートがなかなか見つからなくて困っている時、観光していた一人のフランス人の女性が「Do you need help?」と声をかけてくれ、一緒にアパートを探すのを手伝ってくれました。それだけでなく、全然英語を話せない私の代わりに事情を話してホテルの部屋を取ってくれたり、一緒に観光をしたりもしました。こうして記念すべきヴェネツィア初日は欺瞞に満ちた日になることはなく、これからの生活に希望を与えるものになりました。

そしてついに Istituto Venezia に通う生活が始まりました。はじめにクラスを振り分けるために校長と会話をします。そして私は Livello 1 のクラスに

なりました。Livello 1 のクラスには私の他に10人ほどいました。やはりイギリス・アメリカ・その他ヨーロッパ諸国の外国人がほとんどです。肝心の授業はというと、一番低いレベルのクラスなので文法はとても簡単で問題もスラスラ解けるのですが、すべてイタリア語で授業が進行していくので先生の言っていることがあまり理解できない。これが自分のレベルか、と思い知らされました。授業は9時から13時までで、間に30分ほどの休憩を挟み、先生を替えて計2コマです。ユニークで親しみやすい先生たちと大学にはないゲーム感覚の学習法で、とても楽しく勉強できます。毎日、授業の後は観光や仮面作りなどが学校で催されていましたが、私は結局1度も参加しませんでした。今思えばもったいなかったと思います。私は毎日すぐにアパートに戻り、ヴェネツィアの町を歩き回って風景や建物を見ては写真を撮っていました。毎日授業を受けるにつれて英語を話せない私でも授業のゲームの中でイタリア語を通じてクラスメイト達と少しずつ仲良くなっていきました。クラスには学生もいれば30代、50代、夫婦で来ている人達もいます。日本ではついつい意識してしまう年齢差、ここでは何も気にすることなく素で接することができました。クラスメイトたちと楽しくコミュニケーションがとれるようになると、毎日学校に行くのが楽しみになります。



【いたる所にこのような運河が】

休みの日にはヴェローナやトリノなど他の町にも行きました。ヴェローナに行った日はちょうどヴェネツィアのカルネヴァーレ初日で、駅にはたくさんの観光客であふれていて、駅の前にはフェイスペイントをする店が開かれていました。その時、人の多いヴェネツィアに少しうんざりしました。人

があまりいない閑静なヴェネツィアが好きです、私は。そして列車に2時間ほど乗りヴェローナに到着し駅から外に出た時、そこには美しい景色が広がっていました。天気にも恵まれて1日中歩いて観光しながら写真を撮ったりして、ヴェローナの町を堪能しました。カルネヴァーレが始まったことによりヴェネツィアにはたくさん人が増え、日ごとににぎやかになり様々な仮装をしている人達を見るようになりました。中には日本に感化されたのかスーパーマリオや芸者の格好をしている人もいて、見ていて楽しくおかしかったです。毎晩イベントもあり、真夜中に轟音で音楽が流れ、みんな踊り狂っていました。カルネヴァーレ最終の土日の人の多さは半端でないです。サンマルコ広場に行くのに人が多すぎるため迂回しなければいけないくらいです。仮装者もたくさんいます。彼らは写真を気軽に撮らせてくれるので、行かれた時には是非一緒に撮ってみてください。イタリア人の友達ができ、たくさんお酒を飲みに行ったりケバブを食べに行きました。カルネヴァーレ最終日にはディスコに行き、みんなで狂うように踊っていたのを強く覚えています。ディスコ内で知らない人から「Ciao! Sei giapponese?」など声をかけられ話すこともありました。トリノのディスコに行った時にも同様のことがありました。イタリア人はお祭り大好き、ディスコ大好き！みたいです。Istituto Venezia の授業も残り少なくなるにつれ人が少しずつ増え、クラスの仲も深まり笑顔が絶えませんでした。たくさんの年齢層がいるだけに、本当に一つの家族のような感じでした。そして私が日本に帰る前日にはイタリア人の友達がパーティーを開いてくれ、盛大に騒ぎ、別れを惜しみました。



【家族同然のクラスメイトと】

留学を終えて思ったことが「もっとイタリア語、がんばろう!」ヴェネツィアが観光都市だったのもあり、イタリア語がわからず英語でわかる時は英語に逃げていた自分がいたのが悔しい。次に行く時にはイタリア語だけで大丈夫なようにもっとボキャブラリーを増やしたい。そしてイタリア語を通じて人とコミュニケーションをとる楽しさ、お互いの言いたいことを理解したり、理解してくれた時の喜びを知りました。たった1ヶ月の留学だったけどイタリア語が上達し、そして何よりたくさんの人に出会い友達になれた。短いようで長い、長いようで短い、とても充実した生活を送ることができました。次回は1年くらい行きたいですね。欲を言えば2年です。最後までお読み頂いてありがとうございました。では ciao! ciao!!

(語学講座受講生)

イタリア発月刊日本語新聞

COMEVA?
Pubblicazione mensile distribuita in Italia e in Giappone

イタリア在住日本人と日本人観光客のための情報誌

編集・発行 NIPPON CLUB SNC
Via Torino, 95 - 00184 Roma, Italy
Tel. & Fax : (06) 4743. 212
E-mail : comeva@nipponclub.it
URL : www.nipponclub.it

お問い合わせ等は NIPPON CLUB SNC 宛てにお送り下さい。

パドヴァ通信

第9回『イタリアの行方』

“*Lega Nord, a grandi passi verso l'inciviltà*”

深草 真由子

パドヴァでは六月に行われる市長選挙に向け、市内のエルベ広場で各党が小さなカウンターを設けて広報活動を行っている。今年に入って土曜日には必ずといっていいほど見られるようになった光景だ。党の旗のなびく下で、関係者らはパンフレットを配布しながら、買い物をしに広場にやって来た市民を呼び止めて、熱心に説明を繰り返している。市民の方も積極的に意見を述べて関係者と議論したり、署名をしたり、今すぐにも選挙があってもおかしくないほどの盛り上がりを見せている。特に目につく団体は中道左派の Partito Democratico (民主党)と中道右派の Il Popolo della Libertà (自由の人民)、極右政党と認識されている Lega Nord (北部同盟)だ。Partito Democratico は野党第一党で、前ローマ市長のヴェルトローニが率いていたものの、そのリーダーシップが常に疑問視され、党の支持率も徐々に下がっていった。二月に行われたサルデーニャ州知事選挙での敗北が決定打となり辞任。新たにフランチェスキーニが書記長に就任したが、この危機を乗り越えて野党第一党として政府に対抗できる勢力となるのかどうか、まだまだ不安定な状況が続くようだ。一方、昨年四月の総選挙で圧勝し、現在政権を握っているのは、ベルルスコーニの率いる政党連合 Il Popolo della Libertà とウンベルト・ボツシを党首とする Lega Nord の連立である。しかし、野党側の混迷にも助けられてか、民意を顧みず強硬路線を直走しているという印象は否めない。

ベルルスコーニ政権の基盤の一つとなっている Lega Nord は、その名前が示しているように、北イタリアで1991年に発足した政党で、北部の自治権の拡大を主張してきた。「イタリアの南北問題」、つまり工業化の進められた北部と農業や観光業が中心の南部やサルデーニャ等の島嶼部との間の経済的格差が著しく、そのために北部の納める

税金が南部の経済を支えるという図式ができていたため、北部の市民の間で高まっていた「自分たちの払った税金が南部に吸い上げられている」という反感が、Lega Nord 発足の動きとなった。1996年の選挙においてヴェネト州で30パーセント、ロンバルディア州で25パーセントの票を獲得した Lega Nord はその勢いに乗じ、北イタリアの州からなる共和国「Repubblica Federale Padana」の樹立を宣言するなど、過激な政治活動を行ってきた。だが南北格差が徐々に是正されつつある近年、Lega Nord は貧しい南イタリアから外国人移民へと、攻撃の矛先を切り替えつつある。南部に限らず北部でも経済状況の悪化が甚だしい現在のイタリア社会において、安価な労働力となる移民の存在の与える影響は大きく、残念ながら、外国人に対する憎悪や敵意が蔓延している。Lega Nord はそうしたイタリア人の外国人に対する悪感情を必要以上に煽り立てて利用しているように見えるのだが、ともあれ今年の総選挙では大成功を収めた。北部の富裕層だけではなく、「イタリア人から職を奪う移民」の排斥を期待する南部の労働者層の支持をも集めて議席数を大幅に伸ばし、ベルルスコーニが二年ぶりに首相の座に返り咲くのに、大きな貢献をしたわけである。



【移民やホームレスの人が多い Piazzale Mazzini】

しかしながら、イタリア南部や外国人に対しての Lega Nord の政治家の差別的行為には目に余るものがある。党首のボツシは、自分の息子が高校の卒業試験を二度も落第したことについて、息子の出来の悪さの原因を北部出身ではない教師に押し付けるかのような発言をしたし、カルデローリは数年前、デンマークの新聞がイスラム教の預言者ムハンマドの風刺漫画を掲載したことでイ

スラム世界に抗議が広がった際、その漫画を印刷した T シャツを着てテレビ出演し、世界中で物議を醸した人物だ。そのため当時大臣職の辞職に追い込まれたが、現在の第四次ベルルスコーニ内閣では再び入閣を果たし、行政改革を担当している。

経済危機対策として Lega Nord が主張した案の一つに、滞在許可証の申請(新規・延長とも)を行う外国人に対し 200 ユーロの税金("contributo")を課すというものがある。ベルルスコーニも一度は公に反対を示したものの、自身の政権が Lega Nord との微妙なバランスの上に成り立っているために、Lega Nord の主張に背くのはなかなか難しいものがあるようだ。教育相ジェルミーニは、公立小学校に通う、イタリア語を母国語としない外国人児童が、他のイタリア人のクラスメートと同じように授業を理解するのをサポートしようと、放課後にイタリア語の特別授業を設けることを提案した。しかし Lega Nord は、そもそもイタリア人児童と「彼らの足を引っ張りかねない」移民の児童を同じクラスに入れるべきではないと反発している。滞在許可を得、税金を納めて合法的にイタリアで暮らしている外国人は、今後も様々な社会サービスの面で差別的な扱いをされることになりそうだ。

Lega Nord に属する内務相のマローニが提案している治安対策も厳しい。定住所を持たず集団キャンプなどに暮らしている不法滞在のロマ人とその子供から指紋を押捺させることを決定した。日本人でもイタリアを旅行する時には注意しなければならない路上やバス、地下鉄でのスリや物乞いを一部のロマ人が子供にさせているということ、ロマ人による強姦や暴力事件、飲酒運転での事故が頻発していることから、特に最近彼らに対する批判の声が高まっていたのは事実である。しかし、いくら治安のためとは言え、特定の者のみをターゲットにした指紋押捺というのは人道上許されるのだろうか。しかもそれを子供にまで強要するとは、「親から犯罪行為をするように教えられるロマ人の子供を守るためである」と内務相マローニは主張するが、この政策は子供の人権保護に反してはいないだろうか。全てのロマ人を犯罪者予備軍扱いするのは、明らかに偏見である。

現在政府は町の治安を守るパトロール隊を設けるための法律を準備している。このパトロール

隊は元警官やカラビニエーリによって形成されるグループで、夜危険な地域を巡回し、犯罪者を発見した場合には警察に届け出るというものだ。警察側にとって、このパトロール隊の設置は面目潰しも同然である。政府は警察に対してはパトカー配備のための財源までもカットするにもかかわらず、あたかも警官の仕事は不十分だと言わんばかりにパトロール隊の設置を計画し、そこに一億二百万ユーロもの税金を充てようとしているのである。そもそもパトロール隊は警察の手助けになるどころか、犯罪者による攻撃から身を守るために結局は警察の護衛を必要とするのである。そのためパトロール隊設置は税金の無駄遣いだという意見も多い。



【乱闘のあったパドヴァの駅の様子】

パドヴァではパトロール隊をめぐって乱闘が起き、警察が介入する出来事があったばかりだ。パトロール隊設置についての法案は現在まだ審議中のため、公式な組織はまだ存在していないが、パドヴァでは Lega Nord の関係者らが組になって、治安が悪いと言われる地域を巡回している。主に移民が多い鉄道駅の周辺や旧市街の外側の地域だ。もちろんパトロールの目的は犯罪予防であって、イタリア人も外国人も関係なく皆が対象となるはずであるが、移民排斥を謳う Lega Nord のしていることだ。移民を差別と偏見の目で監視しているのではないかという疑いが生じるのも自然なことかと思う。二月末の金曜日の晩、パドヴァ駅の構内で Lega Nord のパトロール隊と、ホームレスに毛布を配布する若者たちのボランティア団体との間に衝突が起きた。言葉の掛け合いから乱闘にまで発展し、最終的には警察が介入することで解決した。公共の場所の安全を守るためにパト

ルールをするのであれば、政治的イデオロギーをもちこむべきではない。市民皆に対して公平でいるのが前提ではないだろうか。さらにパドヴァの一部の地域において、ケバブ(アラブの肉料理、イタリアではピアディーナに野菜と一緒に挟んで食べられる)の店の午後八時以降の営業を禁止させる条例が Lega Nord によって提案されているが、これも偏見に端を発するもののように思う。「ケバブや外国人の店の前はゴミ捨て場と化している。」「ケバブの店の前に麻薬の密売人や外国人がビールを片手に屯している。周辺の住人にとっては本当に地獄のようだ。」実際のところ、ケバブの店はその辺のバルなどよりもずっと衛生的だという印象を私は持っているし、ケバブのアラブ系経営者が麻薬密売と必ずしも関係を持っているわけではないというのは明らかだ。

ヴェローナやトレヴィーゾなどのヴェネト州の他の町のように、パドヴァも近々 Lega Nord の市長が誕生する可能性がある。党のシンボル、白地に緑色の「アルプスの太陽」を街中で見るたびに、

ナチスの鉤十字を連想して身震いするのは私だけではないだろう。加えて六月に行われる欧州議会の議員選挙にも注目したい。イタリアから選出されるのはどのような人物たちであろうか。



【Lega Nord のポスター】

(元会館スタッフ)

… 会館 だ よ り …

イタリア語 無料体験レッスン

4月から開講の春期イタリア語講座に向けて、体験レッスンを開催します。入門者向け。予約制。

● 梅田:大阪駅前第4ビル

4/ 5 (日) 13:00~14:30

4/ 5 (日) 15:00~16:30

4/ 8 (水) 11:00~12:30

4/ 8 (水) 19:00~20:30

● 四条烏丸:ウイングス京都

4/ 6 (月) 19:00~20:30

● 京都本校:日本イタリア京都会館

4/ 4 (土) 13:00~14:30

4/ 4 (土) 15:00~16:30

4/ 7 (火) 11:00~12:30

カンツォーネ講習会

親しみやすいメロディーの曲を多く集めましたので、お気軽にご参加下さい。

講師: 山本隆子氏 (ソプラノ歌手)

日時: 6/5(金)、6/19(金)

いずれも 14時~16時

参加費(2回一括):

受講生・一般 5,000円

個人維持会員 4,000円

参加費(1回):

受講生・一般 3,000円

個人維持会員 2,500円

会場: 日本イタリア京都会館 本校

曲目:

6/5: ゴンドリ ゴンドラ

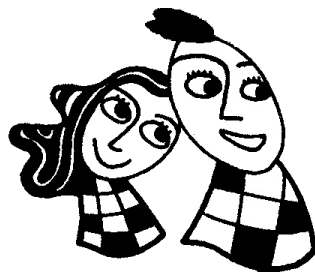
ドリゴのセレナータ

6/19: さらばナポリ

失われた愛

【編集部より】

今月号より、本コンテンツをウェブ化し、より幅広く閲覧頂けるようにさせていただきました。つきましては、従来通りの印刷物をご希望の方は事務局までご連絡下さい。



編集・発行 / (財) 日本イタリア京都会館

〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町4

TEL: (075) 761-4356 / FAX: (075) 761-4357

E-mail: centro@italia.on.arena.ne.jp

URL: http://www.italia.on.arena.ne.jp